

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. ルール、手順に基づく業務管理

(1) 業務管理

自己判断による業務のずれの怖さを意識し、法令遵守に基づいた業務管理体制を推進し、各事業責任者が制度に基づく点検(利用率、利用状況に合った職員配置等)・報告を通じて、意識的に業務管理を行う

- ① 勤務管理表を毎月チェックすることの定着
- ② 利用状況を把握し、見合った職員配置の確保等を意識する
- ③ 業務管理(業務マニュアルⅡ)を基とする家族支援システムを正しく使用し定着を図る

(2) 稼働率の安定と適正支出を図るために

- ① 特養稼働率(目標 95%)の安定にむけて、入所手続き短縮のために、次回入所待機者の事前情報の把握と確保に努める。
- ② 養護は措置施設であることを意識し、市内地域包括との連携や府中市以外都内待機者からの受入も視野に定員 100%利用を目指す。
- ③ 生活の場であることを意識し、医療的な処置を講じずに健康的な暮らしが継続して保てることを目指す
- ④ 人件費の負担を軽減するため、常勤・非常勤職員の適正な人員配置を目指す。

(3) 一人一人の職員がサービスの質の向上に向ける

- ① 法人主導研修と施設内研修に計画的に出席し基本スキルのアップに向ける
- ② 育成担当となるチームリーダーが指導する内容を共通化(人事考課等級別要件やチャレンジプランを活用した OJT)し、ぶれない指導に当たることで、各リーダーの育成にもつなげる
- ③ 一人一人の職員は、事業運営の一員であることを認識し、各部署が相互に補填しあえる組織体としてサービス向上を図る。

2. 各事業、施設としてのサービスの向上

(1) 利用者に満足していただける援助にむけて

- ① 個々の生活活力の維持にむけて、残存能力を活用した個別援助を実施する。
- ② 利用者の気持ちを尊重した過ごし方の充実と個々の暮らしを継続する支援を実施

(2) 地域ニーズの把握と事業展開

- ① 府中エリアの事業検討から、立地が良い施設を活用する検討と具体化。
- ② 食事サービスの提供から次に繋がる事業の拡充
- ③ 地域交流スペースを活用した「健康を保つ」活動の拠点作り

3. リスク管理

(1) BCP 策定へ向けて

- ① 防災訓練の再検証と毎月の訓練への反映
- ② 防災拠点型地域交流スペースを活かす災害時の備え

(2) 事故報告、ひやりハット報告の検証

- ① 当事者以外の目線で発生検証を行う

4. 建物管理

(1) 中期修繕計画の策定に向けて

- ① 各設備機器の標準経年の把握とそれに伴ったメンテナンス計画の立案
- ③ 特に東館への今後 3 年間の修繕計画の策定

施設の取組

1. 地域交流スペースの活用に向けて、「食事サービス」の展開や介護予防事業の「健康講座」等への取組み

2. 利用者の暮らしを組み立て(演出)できる職員の育成

3. 「住まい」の環境整備とリスク管理上必要な物品の整備

4. 人材確保として、看護師配置の安定化と専門業務を行う非常勤職員の確保

5. 特養入所判定の軽介護度待機者への「福祉枠」設定への検討